

2024年12月10日

各位

会社名 ブライトパス・バイオ株式会社
代表者名 代表取締役社長 永井 健一
(コード番号：4594 東証グロース)
問合せ先 取締役 C F O 竹下 陽一
(irpr@brightpathbio.com)

CD39を標的としたT細胞エンゲージャーBP1223の非臨床データをASH 2024で発表

当社は、国立研究開発法人国立がん研究センターと共同で研究開発を進めている、CD39を標的としたT細胞エンゲージャーBP1223に関する試験データを、第66回米国血液学会年次会議（The 66th American Society of Hematology Annual Meeting and Exposition 2024, ASH 2024）において発表しました。

年次学術総会におけるポスターの公開（日本時間 12月10日午前2時）を受けて、本日、発表資料を当社ホームページに掲載します。

BP1223は、AMLなどの血液がん細胞上に多く発現するCD39と、T細胞上に発現するCD3の双方に結合する二重特異性抗体であり、がん細胞とT細胞に結合することにより活性化したT細胞ががん細胞を排除します。

近年、新規に急性骨髄性白血病（Acute Myeloid Leukemia, AML）と診断された患者への標準療法としての地位を確立した化学療法剤ベネトクラクスおよびアザシチジンの併用療法は、従来の治療法に比べ奏効率を上げたものの、予後の生存期間についてはまだ改善の余地を残しています。この原因は、標準治療に使用される薬剤への耐性を獲得したAML芽球が再発を促すことによるものと考えられています。

当社は、このAML芽球におけるCD39発現がベネトクラクス治療耐性と相関していることを新たに見出しました。CD39を標的にすることによって、ベネトクラクスでは殺傷しきれないAML芽球を排除できると考え、BP1223の研究開発を進めました。

主な発表内容は次のとおりです。

- AML 芽球における CD39 発現はベネトクラクス耐性と相関していました。
- 当社が二次特異性抗体技術を用いて創製した、CD39 を標的とした T 細胞エンゲージャーBP1223 は、臨床検体を用いた試験において、T 細胞およびバイスタンダー効果を通じて CD39 陽性および陰性の AML 芽球に対して強力な抗腫瘍活性を示しました。
- さらに、標準化学療法ベネトクラクスおよびアザシチジンと併用することにより、ほぼ完全な AML 芽球の消失を認めました。
- BP1223 の正常骨髄細胞や血管内皮細胞に対する影響は軽微なものでありました。
- AML 異種移植モデルに 0.1 mg/kg の BP1223 を投与することで、すべての処置マウス (n=5) において完全な腫瘍退縮を誘導しました。
- これらのデータは、BP1223 が CD39 陽性および化学療法抵抗性の症例を含む AML に対する新しい治療アプローチであることを示唆します。

【発表演題】

BP1223, a Novel T Cell Engager Targeting CD39 for Potent Antitumor Activity in Acute Myeloid Leukemia (発表番号：4146)

(CD39 を標的とする新規 T 細胞エンゲージャー抗体 BP1223 は急性骨髄性白血病に強力な抗腫瘍活性を示す)

発表日時：日本時間 12月10日午前11時 (米国太平洋標準時 12月9日午後6時)

<https://www.hematology.org/meetings/annual-meeting>

以上

【問い合わせ先】

ブライトパス・バイオ株式会社 管理部

E-mail: irpr@brightpathbio.com

<https://www.brightpathbio.com>